

# #2335

双子のような峰を登る

## 鶴脚山と馬頭刈山

実施日 二〇〇八年一月十三日(日)

天候 晴れ

リーダー 馬場 清士

参加者 上野キヨ、若村貴世子、斎恵美子、佐藤金治、

一柳昭、馬場清士、涌井良明、大村巖、島本陳重

計9名

費用 交通費 約2,000円

コースタイム 武蔵五日市駅(八時四八分)〜九時二四分バス千足(九時四七分)〜九時五〇分茅倉(十時五分)〜十時一〇分馬頭刈尾根(十一時三〇分)鶴脚山(十一時四五分)〜十二時二五分昼食馬頭刈山(十二時五〇分)〜十三時三〇分大休止高明神社跡(十三時五五分)荷田子分岐(十四時二五分)軍道バス停(十五時五分)〜十五時二六バス武蔵五日市駅(十五時三〇分)



この冬一番の冷え込みとの天気予報の中、武蔵五日市駅に下りた。バス1台が満席になる位のハイカーがいたが、殆どが数馬行きのバスに乗り込んだが、おそらく三頭山方面に行くのだろう。我々が乗ったバスは、こぶし会の面々と他にご夫婦らしい二人だけであった。



茅倉でバスを降り、来た道を少し戻り舗装された林道に入る。急坂の林道を一五分位行くと林道が終わり登山道に入る。千足尾根に取り付くと、いきなりの急登でゆっくりジグザグに高度を稼いでいく。更に急登を続け、ロープの



張つてある最後の急登をひと頑張りすると馬頭刈尾根に飛び出した。尾根筋は風が強く、昨日降った雪が落ち葉に乗り、サクサクと足音が気持ちいい。北斜面は白く染まっており、



葉の落ちた木々は氷のダイヤモンドを付けている。緩やかな稜線の縦走路を鶴脚山に向かい、冬景色の中で昼食を摂った。木の階段を急降下し、鞍部から登り返すと馬頭刈山頂だ。北側に大岳山、御岳山、日の出山、南に笹尾根、戸倉三山が展望出来、五日市、青梅、八王子の市街も見渡せ、陽だまりの中大休止とした。小さなピークをいくつか越して、杉の

巨木が多い高明山を過ぎ、高明神社奥の院の跡地に出る。ここからは、急な植林帯をジグザグに下り、軍道集落を過ぎバス停に出た。山中、登山者には一人出会っただけで、こぶし会で独占した静かな山行であった。参加された皆さんお疲れさまでした、また一緒にしましょう。

(記・馬場 清士)

